

平成 29 年 12 月 5 日

燃料油価格変動の運賃転嫁状況アンケート調査結果について
(平成 29 年 4 月現在)

日本内航海運組合総連合会
運賃・用船料委員会

I. アンケート実施概要

アンケート実施期間 平成 29 年 8 月 25 日～平成 29 年 11 月 26 日

(前回調査) 平成 27 年 12 月 24 日～平成 28 年 1 月 20 日

対象事業者数 : 189 事業者 (内航総連合会実施の輸送実績調査対象事業者 (元請けオペレーター))

回答事業者数 : 101 事業者 (前回調査 85 事業者)

有効回答率 : 53% (前回調査 44%)

II. 調査結果の概要

1. 転嫁率について

2016 年 3 月末 (A 重油 49,600 円/KL C 重油 31,350 円/KL) と 2017 年 3 月末 (A 重油 59,200 円/KL C 重油 48,150 円/KL) との価格差 (A 重油 9,600 円/KL C 重油 16,800 円/KL) の荷主への転嫁は、セメント、高温液体、鉄鋼等の輸送貨物について高い転嫁率が見られた。一方で、機械・プラントや砂・砂利・石材は転嫁無し、穀物・肥料・飼料も低い転嫁率となっている。全輸送貨物合計の平均は前回調査より 1 ポイント減少し 78%となった。

No.	輸送貨物	消費量	転嫁計	転嫁割合	運賃に含む	バンカーチャージ	コスト保証
1	鉄鋼	191,772	182,073	95%	33%	67%	0%
2	原料	74,362	55,278	74%	22%	61%	17%
3	燃料	33,061	22,046	67%	25%	61%	14%
4	穀物・肥料・飼料	11,285	2,146	19%	84%	16%	0%
5	機械・プラント	19,756	0	0%	0%	0%	0%
6	木材・紙・パルプ	12,609	6,987	55%	2%	75%	23%
7	雑貨・コンテナ	169,490	144,313	85%	62%	38%	0%
8	自動車	222,355	164,612	74%	23%	77%	0%
9	黒油・白油・油脂	507,304	372,189	73%	38%	39%	23%
10	セメント	121,081	121,081	100%	19%	21%	60%
11	砂・砂利・石材	1,314	0	0%	0%	0%	0%
12	ケミカル	368,090	262,186	71%	5%	13%	82%
13	高圧液化	89,397	75,979	85%	20%	73%	7%
14	高温液体	19,050	18,249	96%	57%	23%	20%
15	耐腐食	8,873	7,547	85%	14%	86%	0%
	計	1,849,799	1,434,686	78%	29%	44%	27%

2. 輸送貨物別転嫁状況について

転嫁方法については、BS 方式 44%、運賃に含むは 29%、コスト保証方式 27%となった。

転嫁についての交渉の有無については、出来ているが 68%、出来ていないが 22%、交渉中が 10% となった。

交渉が出来ていると回答した輸送貨物は、自動車、高温液体、雑貨・コンテナ等が挙げられる。出来ていないと回答した輸送貨物は、機械・プラント、砂・砂利・石材となった。交渉中と回答した輸送貨物は、鉄鋼、高压液化、穀物・肥料・飼料、黒油・白油・油脂に見られた。

3. 事業者別転嫁状況について

転嫁率が 20%未満の該当事業者は、前回調査の 22 事業者より 4 社増加の 26 社となった。回答事業者の 4 社に 1 社を占めている。

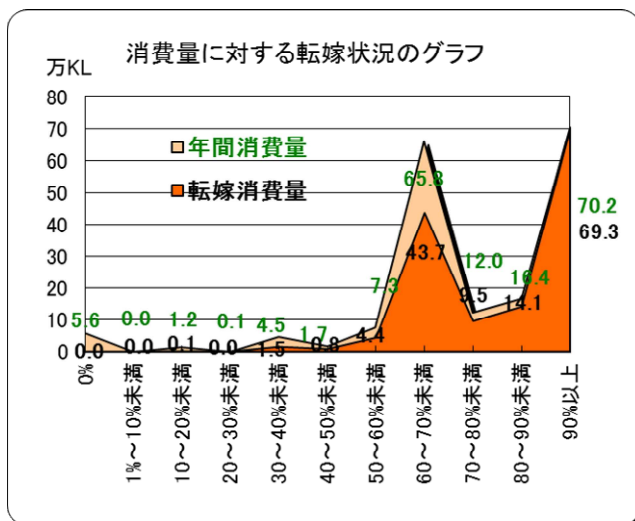
転嫁率が 0%の事業者は、前回より 8 社増加、24 社となった。一方、80%以上転嫁された事業者数は前回調査の 33 社から 11 社増加して 44 社となった。転嫁消費量は全体として約 143 万 KL となり、転嫁率は前回調査より 1 ポイント減少の 78%となった。

未転嫁の燃料油は 42 万 KL で全体の 22%となり、前々回調査の 34 万 KL、前回調査の 32 万 KL と比較すると増加傾向にある。

(単位:KL、%)

転嫁割合	平成29年4月調査						平成27年10月調査					
	年間消費量	割合	転嫁消費量	割合	該当社数	割合	年間消費量	割合	転嫁消費量	割合	該当社数	割合
0%	56,120	3%	0	0%	24社	24%	16,866	1%	0	0%	16社	19%
1%~10%未満	0	0%	0	0%	0社	0%	502	0%	50	0%	1社	1%
10%~20%未満	12,344	1%	1,387	0%	2社	2%	12,584	1%	2,359	0%	5社	6%
20%~30%未満	820	0%	246	1%	1社	1%	22,602	1%	5,734	0%	3社	3%
30%~40%未満	45,218	2%	15,226	1%	3社	3%	51,386	3%	20,056	2%	4社	5%
40%~50%未満	17,131	1%	8,291	1%	4社	4%	19,286	1%	8,902	1%	3社	3%
50%~60%未満	73,195	4%	43,760	3%	5社	5%	62,451	4%	37,366	3%	6社	7%
60%~70%未満	658,423	36%	436,504	30%	10社	10%	351,887	23%	242,385	20%	6社	7%
70%~80%未満	120,446	7%	95,481	7%	8社	8%	276,575	18%	210,578	18%	9社	10%
80%~90%未満	164,020	9%	140,906	10%	11社	11%	104,938	7%	91,341	8%	7社	8%
90%以上	702,082	38%	692,885	48%	33社	33%	589,665	39%	570,726	48%	26社	30%
計	1,849,799	100%	1,434,686	100%	101社	100%	1,508,742	100%	1,189,497	100%	86社	100%
	転嫁率78%						転嫁率79%					

*小数点以下四捨五入のため、%の合計が100%にならない。



4. 満足度調査について

満足度については、現状の転嫁状況について「不満」・「やや不満」と回答した件数は（35%→29%）、
「満足」・「やや満足」と回答した件数は（53%→55%）となった。

現状	平成29年4月		平成27年10月	
	該当数	割合	該当数	割合
満足	74	39%	81	42%
やや満足	31	16%	21	11%
どちらでもない	29	15%	22	12%
やや不満	33	18%	28	15%
不満	21	11%	39	20%
合計	188	100%	191	100%

* 合計が100%にならない場合がある。

輸送貨物ごとに「不満」・「満足」を纏めた結果、「不満」と答えた数が、黒油・白油・油脂、ケミカル等に多く見られた。

一方、「満足」については、ケミカル、原料、黒油・白油・油脂、セメントについて多く見られた。

輸送貨物	満足計	不満計
黒油・白油・油脂	14	10
ケミカル	18	9
高圧液化	10	6
鉄鋼	7	6
原料	15	5
燃料	5	5
穀物・肥料・飼料	1	3
高温液体	5	2
耐腐食	4	2
木材・紙・パルプ	3	2
砂・砂利・石材	0	2
雑貨・コンテナ	6	1
機械・プラント	0	1
セメント	12	0
自動車	5	0

5. 今後の転嫁の見通しについて

今と変わらないと答えた数が94%となり大多数を占めた。少し良くなりそうという改善を見込む回答は4%となった。

回答者からの意見については、

「メーカー荷主は100%BS方式採用ですが、市況を重んじる商社荷主は運賃込みをいまだに採用している。商社は物量があり船社業界への影響は大きい。BS方式化して行くには商社がキーとなる。同業船社間取引（船舶貸借）では、殆どがBS方式不適用である。これも全体のBS方式レベルアップの障害となっている。」（高圧液化）

「量に対しては転嫁されているが、転嫁率（金額）に関しては十分とは言えない。」（黒油・白油・油脂）

転嫁の状況として、BS方式が徐々に増えてきているが、運賃に含むものもあるなど完全ではない。

輸送貨物	良くなりそう	少し良くなりそう	今と変わらない	やや悪くなりそう	悪くなりそう
鉄鋼			100%		
原料		13%	88%		
燃料			100%		
穀物・肥料・飼料			100%		
機械・プラント			100%		
木材・紙・パルプ		17%	83%		
雑貨・コンテナ			88%		13%
自動車			100%		
セメント	7%		86%	7%	
砂・砂利・石材			100%		
黒油・白油・油脂		4%	96%		
ケミカル		3%	97%		
高圧液化		6%	94%		
高温液体			89%	11%	
耐腐食			100%		
合計	1%	4%	94%	1%	1%

6. 交渉の有無について

交渉が出来ていない順に示した。機械・プラントや砂・砂利・石材はそれぞれ交渉が出来ていない。一方で、出来ていると回答したのは、自動車、高温液体等が挙げられる。

輸送貨物	出来ている	出来ていない	交渉中
機械・プラント	0%	100%	0%
砂・砂利・石材	0%	100%	0%
穀物・肥料・飼料	33%	50%	17%
木材・紙・パルプ	50%	50%	0%
ケミカル	56%	34%	9%
鉄鋼	53%	29%	18%
原料	67%	25%	8%
燃料	77%	23%	0%
セメント	79%	21%	0%
耐腐食	71%	14%	14%
雑貨・コンテナ	88%	13%	0%
黒油・白油・油脂	76%	8%	16%
高圧液化	76%	6%	18%
自動車	100%	0%	0%
高温液体	89%	0%	11%
合計	68%	22%	10%

* 合計が100%にならない場合がある。

回答者からのご意見

輸送貨物	交渉有無	転嫁方法	満足度	見通し	意見
黒油・白油・油脂	出来ている	転嫁ゼロ	不満	今と変わらない	内燃研価格が52,800~62,800円/KLの間、荷主とのBSの授受はないので、前年度はバンカーサーチャージはなかった。
鉄鋼	出来ていない	転嫁ゼロ	やや不満	今と変わらない	今後、請求していきたい
黒油・白油・油脂	出来ている	運賃に含む	やや不満	今と変わらない	量に対しては転嫁されているが、転嫁率（金額）に関しては十分とは言えない。
高圧液化	出来ている	バンカーサーチャージ	やや不満	今と変わらない	荷主によって考え方が違う
セメント	出来ていない	コスト保証	やや満足	今と変わらない	コスト保証のため、基本的には転嫁出来ているが購入と運賃上のレス幅が広がりつつある。（マイナス方向）
黒油・白油・油脂	出来ている	バンカーサーチャージ	やや満足	今と変わらない	高転嫁率となったのは、西地区の小型船の実績で船員不足、老齢化船の問題に対応したボンドバンカーオーダーの運賃アップが主因であるが、引き続き荷主との交渉が必要。
ケミカル	出来ていない	バンカーサーチャージ	やや満足	今と変わらない	適用A重油価格と基準A重油価格の差額に応じて、BSの控除及び付加を設定しております。*今期は上記差額がマイナスの為、控除（値引き）となります。
原料	出来ている	バンカーサーチャージ	満足	今と変わらない	輸送貨物については従来の品目についての方が書きやすい。
高圧液化	出来ている	コスト保証	満足	今と変わらない	①メーカー荷主は100%BS方式採用ですが、市況を重んじる商社荷主は運賃込みをいまだに採用している。商社は物量があり船社業界への影響は大きい。BS方式化して行くには商社がキーとなる。②同業船社間取引（船舶貸借）では、殆どがBS方式不適用である。これも全体のBS方式レベルアップの障害となっている。